

vol. 70



守 破 離

【SAVING
BREAKING
LEAVING】

武道・芸道などの修業過程
を示した概念

どこを目指す？

「守破離」は、武道や芸道における学びの段階を表す言葉で、室町時代の能役者・世阿弥が広めた概念とされます。これは「型を忠実に守る（守）」「型を破り応用する（破）」「型から離れて独自の境地を開く（離）」という三段階を示します。この考えはものづくりにも応用ができます。例えば筆記具で「守破離」を考えてみましょう。

●**「守」：万年筆** 毛細管現象を利用し、インクで「書く」ことの基本形と美しさを確立しました。安定した書き味と表現力は、守るべき「型」であり、現代でも書く行為を特別なものにしていきます。

●**「破」：ボールペン** インク漏れや手入れの手間をなくし、携帯性と利便性を高めることで、万年筆の「型」を破りました。これにより、誰もが気軽に「書ける」という新たな価値を生み出しました。

●**「離」：スタイルスペン** 物理的なインクと紙の「型」から離れ、デジタル空間で「書く」行為を再定義しました。無限の編集、共有、多様な表現力を可能にし、筆記具の概念を超越した存在になっています。

注目すべきポイントとして3つの製品がどれも淘汰されたわけではなく、それぞれの強みを活かして現在も活躍・進化し、価値を持ち続けているという点です。また、書き心地や所有欲を満たすという観点では「守」の万年筆を基準に評価されることが多く、「破」や「離」の製品を考える際も「守」を疎かにできないことがわかります。

新商品を考える際に「守破離」のどのポジションを狙うかを念頭にアイデアを考えてみてはいかがでしょうか？取り扱う商品をどのように開発・販売すべきかの指針がはっきりとして、そこからさらにどのように展開していくのかを考える手助けになるかもしれません。

※このカードは、新製品や新企画の着想を得ることを支援するものです。

DESIGN YAMANASHI「守破離」

発行日：2025年9月 編集・発行：山梨県産業技術センター 甲府市大津町2094

